

角膜カンファランス 2017
モーニングセミナー 3

涙液層の安定性を 評価する!

2017年2月18日(土) 8:00~8:50
第2会場(アクロス福岡 4F 国際会議場)



座長

坪田 一男 先生
慶應義塾大学

新たに改定されたドライアイの定義では「ドライアイは涙液層の安定性が低下する疾患」と定められた。臨床研究によりドライアイ患者の大多数が涙液減少よりもBUT短縮が主たる要因と認められたからだ。涙液層の安定性を評価する検査機器には、実用視力計や涙液油層観察装置(DR-1α)がある。実用視力計は日常生活における実際の視機能を評価できる機器で、オフィスワーカーや職業ドライバーなどを対象とした研究でドライアイと実用視力低下の関連性が報告されており、最近ではドライアイ以外の疾患への応用の報告も増えている。実用視力研究の第一人者である海道美奈子先生には、実用視力計のドライアイの臨床はもとより他疾患への応用について解説いただく。

MGDのスペシャリストである有田玲子先生は昨年の角膜カンファランスで、DR-1αで得られた涙液油層の干渉色と非侵襲涙液破壊時間(NIBUT)をパラメーターとして涙液減少型と蒸発亢進型(主にMGD)のサブタイプ分類を報告された。それから一年を経た様々なドライアイ患者のDR-1αによるモニタリングについて解説いただく。



講演 1

実用視力でわかる様々な視機能異常

海道 美奈子 先生
慶應義塾大学



講演 2

ジュピター、その後 ~ Tear film physiology-oriented diagnosis(tPod) の提案 ~

有田 玲子 先生
伊藤医院